

コースの今昔



EST - THE PAST AND PRESENT. LEADERSHIP COURSE - THE EAST AND WEST - THE PAST AND PRESENT.

第1回労働シップコース（東日本）開講式で挨拶をする金井教授（67.7、明学）



IMF JICが結成されて3年目、1967年には、日本では初の画期的な大学と労働組合の提携による「労働リーダーシップコース」が開催されました。これは、IMF JICと明治学院大学産業経済研究所（金井信一郎所長、当時）の提携によるもので、運営は大学側が教授、施設などを提供、JICが運営費を負担、大学水準の基礎的専門科目を重点に中堅的労働組合役員に教えるものです。67年7

LEADERSHIP COURSE - THE EAST AND WEST - THE PAST AND PRESENT.

月6日から3週間にわたる第1回のコースには、20人が受講しました。第1回コースには、松下労組出身の中村正男元衆議院議員、全機金委員長、JIC副議長となった前川忠夫氏、毛頭和則元日本鋼管連合会会長などそうそうたる卒業生がいます。

当時の印象をそれぞれ述べています。

中村正夫氏、松下労組の同僚である藤田さん（枚方市議会議員）と当時の電機労働本部（大森）の宿直室に寝泊まりして汗をふきふき明治学院に通った。当時の労働組合の教育活動の内容は、大方が闘争至上主義から来る実践論や左に傾いた経済学が多かったが、本コースでは、社会政治学、経済学理論、労働関係、労働運動史、社会心理学、産業心理学など大学水準の基礎的専門科目を重点的に勉強することができた。系統的な教育を受けていない私にとって聞くもの全て新鮮で、充実一杯の3週間であった。毛頭和則氏、3週間の経験は私にとって貴重な財産となりました。知識を学ぶということも勿論でしたが、歴史的な運動家の一人であ

LEADERSHIP COURSE - THE EAST AND WEST - THE PAST AND PRESENT. LEADERSHIP COURSE - THE EAST AND WEST - THE PAST AND PRESENT. LEADERSHIP COURSE - THE EAST AND WEST - THE PAST AND PRESENT.

る古賀専氏に「使命感」を持ってと言われたのは今もって強く印象に残っています。そして、現在それぞれの立場で活躍されている方々と親交を結べたことは何よりの財産でした。（『20年の歩み』より）
講師を務められた金井信一郎先生「多くの職場の仲間から選ばれて組合リーダーとなり、またその中から選ばれ派遣された受講生の多くが、いかに人間として立派で魅力的な人物であったことか！その眼の輝きに見られる学習意欲、責任感の大きさと感応力の鋭さ、集団の受講生生活を盛り上げようとする積極的な協調性と自治能力、そして節度ある礼節・・・、一般の大学生には見ることはできないすばらしさに感動を覚え、教育のあり方の真の意味を改めて知らされた



開講式での記念撮影（第1回 67.7、明学）

リーダーシップ

LEADERSHIP COURSE - THE EAST AND WEST - THE PAST AND PRESENT. LEADERSHIP COURSE - THE EAST

のは私どもも出講者の方でした」と。

コースが開かれると、「朝日」毎日新聞の両紙が、いち早く「わが国における最初の大学と労働組合との組織的提携による労働者教育講座」として取り上げるなど、開講と同時に、労働界はもとより、各界からも強い関心と注目を集めました。開講初日の朝日新聞(夕刊)は、その第一面の「大学と労働者教育」と題したコラムの中で、主要先進国での大学による労働者教育の実例を紹介した後、「JICと明治学院大学によるこの度の企画は日本では新風である」として好意的に報道してくれました。

労働リーダーシップ コースの名前の由来

労働リーダーシップコースの開設に黒子として奔走された岩崎壽氏(日本鋼管労組中執、元国際産業・労働研究センター事務局長)の証言によると、「労働リーダーシップコースというバタクさい名前は瀬戸さんがつけたもので、「目的」は金井先生みずからが筆を執られた。要は「若手幹部に対する教育」といつどこに原書がある、これを大学がやることに新しさがあった。」と。(20年の歩みより)

その目的とは、「複雑な現代産業社会の動きに対応する労働組合の機能を強化し、合理的労使関係の確立と労働福祉の増進を図り、もって産業社会の発展に寄与するためにわが国における基幹産業に働く中堅の労働組合員に

対して、大学水準の基礎的教育を行う」と記されている。

以降、30年間、東日本コースは、3週間の期間で、基本的には明治学院大学白金キャンパスで授業を行い、中間で1週間、合宿研修を織り込みながら、研究討議テーマを決めたゼミナールと基礎講座を内容としたコースを開催してきました。

30周年を機に改革への試み

東日本コースは、30周年を契機に、98年から4年間、従来の基礎コースから専門コースへの切り替えに向けて、実験的



第37回上級コースのシンポジウムで成果を発表する受講生(0311)

なトライアルを行いました。また、東日本コースは、30周年を期して、明治学院大学産業経済研究所との提携関係を解消し、教授プロジェクトによる明治学院大学労働リーダーシップコース運営委員会(初代は田村剛運営委員長、現在は大平浩二運営委員長)との提携関係に切り替えました。

東日本コースは、4年間の試行錯誤の結果、IMF JIC教育広報担当委員会や明治学院大学労働リーダーシップコース運営委員会との討議を経て、21世紀を迎えた2001年11月から、「金属労協の新しい運動の変化を踏まえて、金属産業の政策づくりを推進し、新たな労使関係を構築できる人材を養成する」ことを目的に、従来の東日本コースを、労働リーダーシップ上級コース(上級コース)と改称し、2週間のうち、1週間は明治学院大学のキャンパスで、後の1週間は外部研修所で合宿形式にて開催しています。

第36回上級コースに参加した伊東英二氏(ダイハツ労組・学生長)は「研修はさまざまな講義を受けながら、その間にゼミナールを行い、最終的にシンポジウムで課題解決を発表するという流れで、1週目は明治学院大学のキャンパス、2週目が日産労働ゆづらいふ御殿場と途中で会場が変わり、参加者の立場としては慣れができたときに再度気持ちが引き締め緊張感が持続できました」とコメントしています。継続は力なり、金井先生から大平先生まで労働リーダーシップコースは時代のニーズに形を変えつつも、厳然と継続されています。

今昔の
がたり

コースの今昔

WEST - THE PAST AND PRESENT. LEADERSHIP COURSE - THE EAST AND WEST - THE PAST AND PRESENT.



1967年に東日本で労働リーダーシップコースが開講して2年後の69年初夏、西日本地域の組合メンバーからの要望もあり、東日本労働リーダーシップコースの創設に尽力された明治学院大学の金井信一郎教授が同道され、福岡議長と瀬戸事務局長、教育担当の岩崎馨氏が京都の日本クリスチャンアカデミー・関西セミナーハウスを訪問し、労働リーダーシップコースを是非関西でも開講したいので協力願いたいという要請をしました。

当初は東日本と同じように、大学のキャンパスでと考えていましたが、折しも大学紛争中で、大学で長期にわたって開催することは困難な状況でした。幸い関西セミナーハウスが、宿泊設備を持った研修所で、古都京都の山並みを背景に自



第1回西日本リーダーシップコースで受講生を代表して挨拶する衛藤辨一郎氏（69・12、関西セミナーハウス）

LEADERSHIP COURSE - THE EAST AND WEST - THE PAST AND PRESENT. LEADERSHIP COURSE - THE EAST AND WEST - THE PAST AND PRESENT. LEADERSHIP COURSE - THE EAST AND WEST - THE PAST AND PRESENT.

然に恵まれた環境にあることから、そこを本拠にして開催することになりました。校長を引き受けられた竹中先生は、「3週間生活を共にして全人格的教育を進める」よう提案され、かくして、3週間合宿制による西日本労働リーダーシップコースがスタートした。

第1回コースは、1969年12月2日～19日まで3週間関西セミナーハウスで開校されました。最初の受講生は17名でした。講義科目は、原則として1日1講座で午前中に基礎概論の講義を、午後には各論応用の講義を受けるという、じっくりと学ぶというやり方でした。科目としては、経済史、経済学史、労働運動史、経済理論、労働論、産業社会学、賃金論、国際経済学、特別講演、社会倫理学、哲学、国際政治学、社会思想というものでした。特別講演は「経営と人間」と題して経営者から講演を聞くということで第1回は、松下幸之助氏に出講いただきました。

また、講師の中では、竹中先生のおついで国際政治学の講義を高坂正堯先生が引き受けてくださり、以降亡くなるまで毎年講義をいただきました。

第1回コースを受講した衛藤辨一郎さんは受講した感想を次のように記しています。

衛藤辨一郎氏（1回生、新日鐵八幡労働出身）「第1回のコースを受講することになった私は、3週間ゆっくりできるとばかり、遊びの切符を手にした心境で勇んで京都へ出向きました。（中略）ところが、まず開校式、ずらりと並んだ先生と

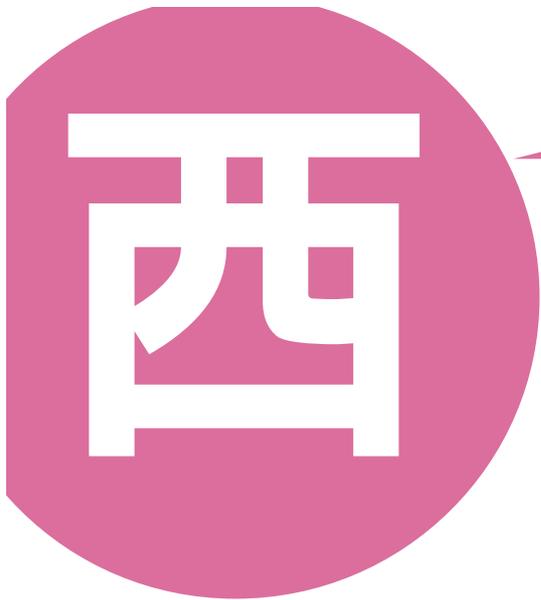
LEADERSHIP COURSE - THE EAST AND WEST - THE PAST AND PRESENT. LEADERSHIP COURSE - THE EAST AND WEST - THE PAST AND PRESENT. LEADERSHIP COURSE - THE EAST AND WEST - THE PAST AND PRESENT.

第1回コース特別講演では、「経営と人間」の講師に松下幸之助氏を迎えた（69・12）



ピアノ演奏、その厳肅さに、これは一寸様子が違つと面くらい、あわてたものでした。先生方のリーダーシップコースにかける熱気のようなものを感じて、いつの間にかできる良い生徒？になって、3週間過ごしたように思います。若気の至りで、一人前のつもりで現地で何かにつけぎゃーぎゃーやっていただけに、ハウスでの3週間は想い出となりました。静想と清掃を動盪いしたりして……。以下略（『15年の歩み』より）

その後、35年間、現在に到るまで、竹中校長の下、中條毅運営委員長、平田哲副校長をはじめとする運営委員会の先生方の情熱あふれる協力の下、JCB本部事務局、関西地連（現・関西ブロック）、そして受入れの関西セミナーハウスとがっちり連携をとって進められてきました。



リーダーシップ

LEADERSHIP COURSE - THE EAST AND WEST - THE PAST AND PRESENT. LEADERSHIP COURSE - THE EAST AND WEST - THE PAST AND PRESENT.

なお、東日本コースが2001年11月から上級コースに改編したことに伴い、西日本コースは基礎コースとしての位置づけをより明確にして、「西日本」の冠を取り、「労働リーダーシップコース」に改称しました。

時代のニーズに合わせて、講義の数は増えてきましたが、全人格的教育の伝統を踏まえ4つの柱のカリキュラムに従い、毎回改善を加えつつ、現在に至っています。

四つの柱について、竹中校長は次のよう述べられています。「青年は次の時代を担う者であり、青年を教育するものは次の時代を築くものである。私は青年を愛する(中略)共同生活は、古都京都の北東に位置する修学院の

関西セミナーハウスでなされた。私は厨房担当の原田静枝さんに三週間のメニューをあらかじめ提出してもらった。長期にわたる共同生活では、一緒に食事することが一番大切であると思ったからである。全人格的な人間の成長をめざして、

歴史、国際関係、産業・経済、

人間と文化の四つの柱に分けてカリキュラムを作成した。毎



第35回コースの開校式(04.1、関西セミナーハウス)

LEADERSHIP COURSE - THE EAST AND WEST

年運営委員会で受講生の評価をもとにして、講師陣の入れ替えをなしマンネリ化を防ぐようにした。松下幸之助氏、日向方齋氏、亀井正夫氏など毎年経営者において頂いて、話し合いの時を持つように務めている。

労働と人間

今昔のがたり

よく学び、よく遊ぶ。をモットーに、リズムある生活が

LEADERSHIP COURSE - THE EAST AND WEST - THE PAST AND PRESENT. LEADERSHIP COURSE - THE EAST AND WEST - THE PAST AND PRESENT. LEADERSHIP COURSE - THE EAST AND WEST - THE PAST AND PRESENT.

続けられた。講師の諸先生、セミナーハウスの所長をはじめスタッフの尽力もさることながら、主体的に責任をもって、このコースに参加された受講生の諸君達に私は深い感動の思いを持っている。彼らこそが私たちの学びあいの主役であった。『JIC30年史』より」と。

第34回コースの学生長永島さん(オムロン労組三島支部)はこんなコメントを寄せています。「早朝のラジオ体操、ウォーキングに始まり、日々の英会話教室、国際協力や政治・経済・財政・雇用・法律・倫理・労使関係などの3時間単位の多彩な講義、セミナー形式による論議やレポートの作成、座禅や茶室体験・・・などなど、本当に盛り沢山な18日間で、今後の労働活動の方向性や取るべき行動について考えるのみでなく、心身両面での鍛錬もはかれました」と。

第2代議長の宮田義二顧問には、今でもこのコースで「労働運動史」の講義の講師として、労働運動の魂の継承をお願いしていますが、宮田顧問はこうコメントを寄せています。

「IMF JICが今日、日本の労働運動に、極めて大きい力を発揮でき、その影響するところが広がりを見せているのは、こうした地道な労働リーダーシップコースという学問による人間の指導力養成が決定的な役割を果たしていることはいままでもない。私はこのコースが、今後IMF JICが続く限り、系統的に歴史を綴り、有能でかつ責任感あふれる組合役員の供給源として、ますますの隆昌を期待している。『15年の歩み』より」